

調査日 群馬県森林組合連合会共販所 8月17日

今回も市況は絶不調が続いている

「あともう少しで、虫害の最盛期を超えれば少しは動きがあるのではないか？」

と考えていたが、今年はこの暑さで虫の動きはまだ本格化して居ない様だ。

買い方は「今年の虫害はこれからが本番になるのではないか？」と見ている。

確かに、県森連の土場には虫害の進んだ材は見受けられず、この事も例年の景色とは違う点だ。

例年であれば、極積した丸太の段毎にフラス(虫の食べかすが侵入孔から排出されて積もった物)

が溜まり、かなり悲惨な状態だったものだ。

あまり酷い時は、さすがに**売り物**なので少しでも見た目を良くしようと、朝から箒で掃いたり

もしたが、買い方が見に来る頃には元通り積もっている。又掃いて見たところで虫害木を

ごまかせる訳でも無いのだが、ただ人情に突き動かされての行動だった。

実はこの時余り激しく掃いたり、丸太の上を歩いたり、ましてや動かそうものなら、虫は危険を感じて

より中の方まで喰い込み、かえって虫害が進むことになるので、そーっと静かにやったものだ。

しかし、今年はそれが見えない。全く無い訳では無いのだが、箒では掃こうなどと思うものは

見当たらない。買い方の中には「もう少し涼くなれば(虫が)動き出す。」と見ている人も少なくない

いずれにしても、このままでは済まない雰囲気は満々である。

最近では原木市場も季節感に乏しく、年間を通して市況を支配するのは、社会情勢やら

海外の木材事情、更には為替レートの変動といった因子である。

昔からニッパチと言って2月と8月は木材は不況の月とされている。他の業界で言われる事も

ある不調の時期だ。しかし、これは必ずしもネガティブな例えではなく、木材が売れずに苦しい時

“ここを乗り越れば**光明が見える**”と言った目標のような物だったかも知れない。

過去を振り返ってみると、“秋の需要期”とは10月～11月中旬と言った所を指している。

これ以降は、年越しに向けて財布の紐は再び固くなる。

今回の市は、余りにも 質・量・売上 が少なく、更に入札参加者も少ないので掴み処が無いが

この状態も又判断材料だ。掴み処が無いのは、安い物しか売れていないからだろう。

落札数の多い“白山製材”は土木用材の工場で、不況の木材業界とは少し距離がある。

一件だけ顔を見せた“岩井木材”は古くからの 小丸太屋さんで主に造園業界と繋がっている。

あと売れているものは、“訳ありで安い物件”・“量の少ない物件” で、様子を見るというよりも

買い方も、安い物でニッパチを凌いでいると言った方が良さそうな状況だ。

調査日 素材生産協同組合 8月29日

今回は少し入荷材の整理が進み事務所前の通路が開通していた。

奥へ進む通路も、辛うじてフォークリフトが一台通れるだけ開いて、一応すべての通路は開通している。しかし、通路沿いに並んでいるのは今年の夏に入荷した皮剥け材の壁だ。材が売れた訳でもなければ、桎積み能力が向上した訳でも無く、入荷が鈍化しているだけである。入札にかけられている物件も新しい桎が多い訳でも無い。

これはどこの市場でも宿命的な頭の痛い案件だが、落札されていながら引き取られない物件が居座っているため、せっかく在庫一掃のチャンスであっても、市にかけられない状況に陥っている。「次は、昨年入荷の古い材が次の市には掛かるのか？」

と聞けば「今年の材はもう虫害の心配はしなくて良い。今入荷している材が、虫害が進行中なので、どうしてもプラスがドンドン吐き出される材を、優先してしまう」との事だが、話をしても、職員の士気が低い。こんな倦怠感の中で仕事をするのは、なんとも気の毒でもあり、最低でも次の市のビジョンを考えないで仕事をやっていることに、腹立たしさを感じる。国有材は1件を残して応札があり、それが役所の予定価格に達しないため不落札になった様だ。役所の予定価格と応札の差がどれだけあったか不明だが、応札者に対して値上げ交渉もして居ない様だった。このままだと素生協の市場は消えてしまうような気がした

今回広葉樹はまともな物が無く見る物はなかった。カヤの太い物があったので少し期待をして見たが、現物は目粗でやはり薪にしかならない代物だった。

カヤは短くても、腐っていても木目が詰まっている元玉で将棋盤が1面取れば、大化けする代物だ。12cm厚の物で1面400万～500万円は下らない。

針葉樹は相変わらず3.0mは売れない、特に摘寸とされてきた16～18cmは完全に避けられている小井土製材で取り組んでいた2×4のSPF材の代替え試験も期待はできなそうだ。

そもそも、SPF材とはSはスプールス(米トウヒ)・Pはパイン類・Fはファー(もみ類)などの総称で柔らかくて加工のしやすい木なら何でもSPF材として10把一絡げの材だ。

これの代替えとして、日本の低質材に目を向けられ、同等の品質として使えるかどうかどうか？など調べられても、本音は「大きなお世話だ」といった気分だが、この膠着状態では、何でも試してみるほかない。最後に3.0m材は絶不調で造材すべきではない。